

『頑なな信仰者たち』

’21/07/25

聖書箇所:マルコの福音書 11 章 27 節-12 章 12 節(新約 p.90-)

皆さんは、「欠陥住宅」に住みたいと思われませんか? 「欠陥住宅」をご存知ですか? 「欠陥住宅」とは、「法令等の様々な基準を“満たしていない”住宅のこと」で…、そのために、安全性や快適性、あるいは、使い勝手など…、様々な観点から支障を来してしまうような住宅のことを言います。…恐らく、誰でも、欠陥住宅になど住みたくはないでしょう。でも、欠陥住宅の恐ろしいところは、一見して、それが分からないところにあります。…そうでしょ?

しかし、今から約 2000 年前、あのエルサレムの町には、そういったような欠陥住宅ならぬ、欠陥だらけの信仰…、見せかけだけの信仰とも言うべきものが数多く蔓延しておりました。だから、ルカ伝に記されているように、イエス様は遠くから、あのエルサレムの町ををご覧になって、涙を流されたのです(ルカ 19:41-44)。…と言いますのも、あのエルサレムの町には、立派な神殿などには有っても、神様が喜ばれるような信仰者あるいは、しっかりとした教師たちがあまり居なかったからです。

命題: 当時の者たちは、どのように、神に対して頑なであったでしょう?

今日、私たちは、今から約 2000 年前、エルサレムに居た信仰者たちが、如何に、上辺ばかりで…、神様が喜んでくださるような中身を伴っていなかったと言うこと…、言い換えますと、彼らが如何に、真の神様に対して、頑なであったのか? ということを見ていきます。そうすることによって、願わくは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、神様の前に心を砕かれて…、まずは、神様が与えてくださる一番の恵みである救いを受け取ってくださって…、そして、ますます、「通り良き管」として、イエス様のことと、救いのメッセージを宣べ伝えていってくださいますことを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、マルコ伝 11:27 以降をお開きください。

I・イエス様のことを、非難しようとしていた!(27-33 節)

まずは、今回のみことばの前半部分となる、マルコ 11:27-33 に注目していきましょう。そのみことばは、**当時の祭司長たちが、イエス様のことを“非難”しようとしていた!**ということを見せてくれています。マルコ 11:27-33 には、このように記されています。

27 彼らはまたエルサレムにきた。イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、イエスのところにやって来た。

28 そして、イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だれが、あなたにこれらのことをする権威を授けたのですか。」

29 そこでイエスは彼らに言われた。「一言尋ねますから、それに答えなさい。そうすれば、わたしも、何の権威によってこれらのことをしているかを、話しましょう。

30 ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。答えなさい。」

31 すると、彼らは、こう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天から、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったかと言うだろう。

32 だからといって、人から、と言ってよいだろうか。」——彼らは群衆を恐れていたのである。というのは、人々がみな、ヨハネは確かに預言者だと思っていたからである。

33 そこで彼らは、イエスに答えて、「わかりません」と言った。そこでイエスは彼らに、「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい」と言われた。

●祭司長たちが抱いていた たくらみ

今読んだみことばをご覧くださいますと、この時も、イエス様の一行はエルサレムに来て、その神殿におられました。一体、イエス様は何をしておられたのでしょうか? …実は、並行記事であるルカ伝 20 章を見てみますと、そこでイエス様は、民衆たちに福音のメッセージを宣べ伝えておられたことが分かります。そのイエス様が神殿の中を歩いておられると、そこに、祭司長と律法学者たちが、町のリーダーでもあった長老たちと一緒にやって来ました。…と言いますのも、祭司長たちには、ある“目的”があったからです。

どうぞ、今日のみことばの 28 節に注目してください。そこには、こう記されています。「…(彼らは)イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だれが、あなたにこれらのことをする権威を授けたのですか。」」って…。…どうも、聖書の翻訳というものは、できるだけ、翻訳者の個人的な解釈を排除しながら…、丁寧な言葉を使って翻訳されてあるので、この時の祭司長たちがイエス様を持っていたはずの“敵意”というものが、あまり伝わってきません。しかし、彼ら祭司長たちが、かなりの敵意をイエス様に抱いていたのは間違いありません。…だから、私たちが少し前に学んだマルコ 11:18 には、こう記されています、「祭司長、律法学者たちは聞いて、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスを恐れたからであった。なぜなら、群衆がみなイエスの教えに驚嘆していたからである。」って…。

ま、こういったみことばからも明らかなのは、彼ら祭司長たちは、イエス様に対して敵意を持っていた、ということ。しかも、それは、並々ならぬもので、何とかして、イエス様のことを殺してやろう! というようなものでした。…本当に、神様に仕えるべき宗教家として、あるいは、民衆たちを教え導くべきリーダーとして、あるまじき姿勢です! …でも、これが当時の宗教家たちの現実であったのです。

さて、今日のみことばには、彼ら祭司長たちが抱いていた“たくらみ”というものが、はっきりと記されています。…まず、ここ 28 節で、彼らがイエス様に対して尋ねた、「一体、何の権威によって、これらのことをしておられるのですか! ? 」という、「これらのこと」というのは、イエス様が口バの子を拝借したことではありません。もちろん、イチジクの木を枯らしたこともありません。彼らが問題にしているのは、イエス様が、両替人たちや生贖の鳩を売る商売人たちの台を倒したり、彼らのことを神殿から追い出したりしたこと…、所謂、「宮きよめ」であります。もちろん、それは、イエス様からすると、神様への礼拝を捧げるべき、神聖な神殿において、その商売人たちは巡礼に来た者たちの足元を見て、暴利をむさぼっていたと言うか…、それはまるで、強盗のようなあくどい商売をしていたからでした。

しかし、そのようなエルサレムの神殿にあって、この当時の祭司長たちは、神殿を裏から牛耳っていたと言うか…、神殿で様々な商売や催しなどをする時、彼ら祭司長たちが、その許可を与えていたのです。しかし、イエス様は、そんな商売人たちのことを、神殿から追い出すとされたわけで…、そういったイエス様の勝手な立ち居振舞いが、祭司長たちには我慢ならなかったのでしょう。

それで、彼らは、イエス様に対して、もう我慢をすることができずに、「一体、お前に何の権威があって、こんな勝手なことをしているのか! 」という質問をするわけです。実は、これは非常に巧妙かつ、狡猾な質問でありました。…と言いますのも、もしも、ここでイエス様が、「自分に権威を与えたのは、神様です」と言えば、祭司長たちは、「神様から権威を与えられた、私たちに逆らうことをして…、どうして、あなたが神様に従っていると言えるのですか? あなたは矛盾しています! 」と言うことができるし…、あるいは、もし、イエス様が誰かの名前を出そうものなら、それは自分たちとは全く関係の無い者のはずですから、「あなたは、勝手なことをして、罪を犯した! 」と言って、イエス様を追及できると考えました。いずれにしても、祭司長たちはイエス様のことを追及して、イエス様の行為を非難することができると、彼らは考えたのです。

●イエス様がされた、質問の 意図

しかし、イエス様は、そういった祭司長たちの悪だくみをすべてご存知であったので、彼らの質問に対して、答えることをせずに、逆に、こんな質問をされます、「その前にまず、あのヨハネのバプテスマは、天から来たのですか？それとも、人から出たのですか？」って…。実は、この質問もまた、祭司長たちの裏をかような質問でありました。…と言いますのも、もしも、彼らが「天、つまり、神様からです」と言ってしまうと、じゃあ、なぜ、そのヨハネのことを信じなかったのか？と言われるだろうし…。その逆に、「人からのものです」というようなことを言ってしまうと、多くの民衆たちが、バプテスマのヨハネのことを神様から遣わされたと感じていた以上、祭司長たちも、ただでは済みません。

実は、この時、祭司長たちが真っ先に考えたのは、旧約聖書の教えであったと思われる。実は、旧約聖書の申命記 18 章には、「天の神様が預言者を遣わすから、あなた方はその言うことを聞かなければならない！」ということが命じられてあります。ですから、もしも、バプテスマのヨハネが、神様から遣わされた預言者であるということを彼ら祭司長たちが認めてしまうと…。そのヨハネは、イエス様のことを救い主と認めたくなくて、自分たちもまた、このイエス様のことを救い主であると認めないわけにはいきません。

例えば、ヘブル書 3 章には、「もしも、あなたが神の御声を聞いたら、あなたは、その心を頑なにしてはならない！」(ヘブル 3:7-8)ということが教えられてあります。天におられる真の神様は、皆さんがクリスチャンであろうとなかろうと…。この聖書のみことばを通して、様々な真実…。あるいは、神からの警告というものを語ってくださっています。しかし、問題は、私たちの心です。それは、つまり、皆さんの心が、果たして、神の真実を受け入れられるような状態にあるかどうか、心が砕かれているかどうかです。

よく、私たちは、こんな言葉を口にします、「あなたに、そんなことを言われたくない！」って…。皆さんも、そういった言葉を口にされるのが無いでしょうか？でも、よくよく考えてみますと…。誰が言おうと、真実は真実です。そうですよね？問題は、私たちが語られている内容にはなく…。語っている人物に、目を向けてしまうことです。この当時、祭司長たちや町の主だった者たちは皆、イエス様のことを、ガリラヤ出身の田舎者で…。まだまだ若造だと言うことで、真剣に耳を傾けようとはしませんでした。でも、問題は、イエス様の出身や年齢ではなく…。その語られている内容が正しいかどうかであるはずでした。

しかし、当時の祭司長たちは、真摯にイエス様の言うことに耳を傾けることをせずに、はなから、イエス様の言うことを否定して…。自分たちの都合ばかりを優先しておりました。だから、彼らは、せつかく神が示してくださった真理が見えなかったのです。ひょっとしたら、皆さんも、かつては、そうであったのではないのでしょうか？ここ日本にあって、私たちが伝道をしようすると、実に、多くの方たちが、こんなことをおっしゃいます、「私たちの家は仏教ですから…(とか)、家には仏壇がありますから」って…。でも、私たちの家の宗教が仏教であろうが、家に仏壇があろうが、真実とは何の関係もありません。そうではないのでしょうか？

私たちは、神様が語ってくださっていることに対して、心を開いて…。神様からのメッセージに耳を傾けないといけません。そういったことを、この当時の祭司長たちはしようとしませんでした。だから、彼らは、イエス様から何度も非難されてしまったのです。でも、じゃあ、果たして、皆さんはいかがでしょうか？はたして、私たちは、神様の前に、心を頑なにしてしまっていないのでしょうか？どうか、そういったことを、今一度、吟味していただきたいと思います…。

Ⅱ・邪魔者たちを排除してきた！(1-12 節)

さて、その次に見ていきたいみことばは、今日のみことばの後半部分です。どうぞ、マルコ 12:1-12 をご覧ください。ここのみことばは、あのイスラエルの民たちが、自分たちにとって都合の悪い“邪魔者”たちのことを排除してきた！ということをお話してくれています。

1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒

ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

2 季節になると、ぶどう園の収穫の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのところへ遣わした。

3 ところが、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。

4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐり、はずかしめた。

5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも殺してしまった。続いて、多くのしもべをやつたけれども、彼らは袋だたきにしたり、殺したりした。

6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それは愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう』と言って、最後にその息子を遣わした。

7 すると、その農夫たちはこう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』

8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう園の外に投げ捨てた。

9 ところで、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。

10 あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎の石になった。』

11 これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである。』

12 彼らは、このたとえ話が、自分たちをさして語られたことに気づいたので、イエスを捕らえようとしたが、やはり群衆を恐れた。それで、イエスを残して、立ち去った。

● 真の神様 に対して、イスラエルが犯してきた過ち

このみことばは、先週にも引用させていただきました。ここで、イエス様は、ぶどう園に関する例え話を使って、それまでイスラエルの民たちが、真の神様に対して、どのようなことをしてきたか？ということをお話されています。…まず、このぶどう園を造ったご主人様というのは、間違いなく、天の神様のことを指しています。その神様は、アブラハムの子孫であるイスラエルのことを選ばれ…。そのイスラエルを特別に導いてくださいました。そして、神は、そのぶどう園を農夫たちに貸すわけですが、この農夫たちというのは、イスラエルの宗教的指導者たちのことを指しています。

そこで、神であるぶどう園の所有者は、しるべき季節になって、収穫の分け前を取るために、『しもべ』をその農夫たちのところへ遣わします。この『しもべ』たちというのは、神様が過去イスラエルに遣わしてくださった預言者たちのことを指しています。神様から遣わされた預言者たちは皆、何度も何度も、神様から語るべき言葉を与えられて…。それらを大胆に語っていきました。しかし、肝心のイスラエルは、全体として、神様が遣わしてくださった預言者たちのことを心から敬おうとはせず、神様のみことばに対して、誠実に従おうとはしませんでした。

そこで、神であるぶどう園の所有者は、最後に自分のひとり息子を遣わします。これは、間違いなく、イエス様のことを指しています。イエス様は、それまでの預言者たちとは違います。もちろん、神が遣わされた預言者たちとイエス様と…。その語った内容は、基本的に同じです。でも、イエス様は、その所有者の息子であって…。唯一無二の存在でありました。所有者は、過去に遣わしたしもべたちとは違って、自分の息子なら、敬ってくれるのでは？という期待をもって遣わしたと、イエス様は教えてくださいました。勿論、これはある意味において、誇張です。天の父なる神様は、イスラエルがイエス様のことを拒むことを御存知であられました。しかし、普通の…。世の中の父親なら、そう思うだろうという、例えです。

しかし、その結果はどうであったでしょう？果たして、イスラエルの民たちは、神のひとり子であられる、イエス・キリストのことを歓迎し、敬ったのでしょうか？⇒いいえ…。その結果は、ここでイエス様がおっしゃっておられるように、何と、彼らは、神のひとり子でさえも迫害し、最後には殺してしまわれたのです！もちろん、

これは、あくまでも例え話の内容です。でも実際に、イスラエルの民たちは、この数日後、イエス様のことを、「十字架につけろ！十字架につけろ！」と言って、殺してしまうわけです。イエス様は、自分がかもう間もなく、あの十字架上で殺されるということを、すべてご存知であったのです。

● 神がなしてくださった、最高の恵み = 救いの完成！

どうぞ、皆さん。もしできましたら、イエス様がエルサレムに入城なさった時、群衆たちが賛美した時のみことばに注目してみてください。今日のみことばの少し前、マルコ 11:9 の部分です。その欄外、脚注の部分をご覧くださいと、そこに小さく…、引用されてある聖書の箇所が記されてあります。そこをご覧くださいと、小さな文字で、「詩篇 118:25」と書かれてあることが分かると思います。これは、ここで群衆たちが賛美した内容が、詩篇 118:25 からの引用であるというしるしです。彼らは、イエス様のことを、メシヤ…、つまり、約束の救い主であられるという理解を、ある程度持っていたということが、こんなことから分かるのです。

しかし、いつも言いますように、彼らの理解は、決して十分なものではありませんでした…。そこで、イエス様は、もう1度、その詩篇 118 篇を引用することで、ご自分のことを気付かせようとなさるのです。それが、詩篇 118:22 のみことばです。そこには、こう記されてあります、『家を建てる者たちの捨てた石。それが礎の石になった。』って…。『家を建てる者たち』というのは、先程見た農夫たちのことで…、当時の宗教的指導者たちのことを指しています。そして、彼ら…、当時の宗教的指導者たちの見捨てた石というのが、イエス様のことです。しかし、詩篇のみことばには、その見捨てられた石こそが、後になって、『礎の石になった…』ということが教えられてあります。ご存知のように、礎の石というのは、建物を建てる上で、最も大切なものと言い得るものです。これが、しっかりした物でないと、建物全体に影響を及ぼします。しかし、それこそ…、偉大なる神様の御計画でありました。

この時代の祭司長たちが見捨てたイエス・キリストが、十字架にかかって…、約束通り3日目に、その死からよみがえってくださることによって、救いの道が完成されました。また、そのことによって、神様のみことば通り、教会というものが誕生しました。その教会の土台は、イエス・キリストです（I コリント 3:11；エペソ 2:20）。聖書は、はっきりと、そのことを教えてくれています。イエス・キリストこそ、神が約束してくださっていた唯一の救い主であられたのです！だから、聖書のみことばは、『…この方以外には、だれによっても救いはありません！』（使徒 4:12）と教えるわけです。…と言いますのも、天の神様が遣わしてくださったお方は、このイエス・キリスト以外には居ないからです！このイエス様以外に、あなたの罪を負って…、あなたの身代わりに、神の罰を受けてくださったお方はおりません。このイエス様以外に、罪に対しても…、そして、死に対しても勝利されたお方はおりません。だから、私たち人間は、このイエス様というお方を信じる以外に、救いの道は無いのです！

● 神様の愛と裁き！

どうぞ、皆さん。もしできましたら、イザヤ書 5章の初めの部分を紹介させてください。今日のみことばで、イエス様は、イスラエルの民たちのことを話すに当たって、ぶどう畑に関する例え話を話してくださっていますが、実は、ここイザヤ 5 章でも、同じように、イスラエルの民たちがぶどう畑に例えられています。どうぞ、そのイザヤ 5:1-6 をご覧ください。『1 さあ、わが愛する者のためにわたしは歌おう。そのぶどう畑についてのわが愛の歌を。わが愛する者は、よく肥えた山腹に、ぶどう畑を持っていた。2 彼はそこを掘り起こし、石を取り除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、酒ぶねまでも掘って、甘いぶどうのなるのを待ち望んでいた。ところが、酸いぶどうができてしまった。3 そこで今、エルサレムの住民とユダの人よ、さあ、わたしとわがぶどう畑との間をさばけ。4 わがぶどう畑になすべきことで、なお、何かわたしがしなかったことがあるのか。なぜ、甘いぶどうのなるのを待ち望んだのに、酸いぶどうができたのか。5 さあ、

今度はわたしが、あなたがたに知らせよう。わたしがわがぶどう畑に対してすることを。その垣を除いて、荒れずたれるに任せ、その石垣をくずして、踏みつけるままにする。6 わたしは、これを滅びるままにしておく。枝はおろされず、草は刈られず、いばらとどろが生い茂る。わたしは雲に命じて、この上に雨を降らせない。』

ここで、神は、その愛するイスラエルの民たちのために、それこそ、すべての必要を満たしてくださったことを教えてくれています。神は、愛するイスラエルのために、①その土地を掘り起こし…、②石を取り除いて…、③そこに良いぶどうを植えてくださいました。④また、それだけではありません。神は、そのぶどうのために、やぐらを立てて…、⑤酒ぶねまでも掘ってくださっていたと言うのです。つまりは、神様の期待ですよ。しかし、現実には、どうであったでしょう？⇒みことばには、『酸いぶどうができてしまった…』と書かれてありますように、神様の期待通りではありませんでした。

どうぞ、4 節をご覧ください。ここで、神様が、『わがぶどう畑になすべきことで、なお、何かわたしがしなかったことがあるのか。』とおっしゃっておられるように、天の神様は、至れり尽くせりと言うか…、イスラエルに必要なすべてのことをなしてくださいました。…にも関わらず、イスラエルは、神様の期待に応えようとはせず、間違った道を歩んでいってしまったわけです…。それゆえに、神は、イスラエルに対して、厳しい裁きを語っておられ…、実際に、そのことが起こってしまったのです。

イエス様が語ってくださった、この例え話では、ぶどう園のご主人様は、その農夫たちのことを滅ぼしてしまわれます。そして、そのぶどう園を他の者たちに与えてしまう、とあります。実際、天の神様は、当初、イスラエルにしか与えていなかった祝福を奪って…、それを、新約の教会へと転換してしまわれたじゃないですか！かつて、旧約の時代にあつて、神は、主に、イスラエルの者たちに対して語ってくださいました。神は、イスラエルを導いて、神様御自身の栄光を現わしてくださいました…。しかし、現代にあつて、神は、イスラエルではなく、教会に対して、みことばを与えてくださっています。今、天の神様は、イスラエルではなく、教会を通して、御自身の栄光を現わして、みこころをなしてくださっています。

もちろん、だからと言って、神はイスラエルのことを完全に見放されたわけではありません。今も、神様は、イスラエルのことを憐れみの内に覚えてくださっていて…、イエス様が空中に再臨なさった後、そこから、イスラエルの国は、また新たな局面を迎えていきます。しかし、そういったことは、まだしばらく先のことです。でも大切なことは、イスラエルの国が、ご主人である神様に逆らってしまったことで、そのみこころを大きく損ねてしまったという現実です。

どうぞ、皆さん。最後に、もう1カ所だけ、紹介させてください。新約聖書の、マタイ 21 章のみことばです。実は、今日のみことばには記されていないのですが、そこに記されてあるのと同じエピソードについて記されてある、マタイの福音書の方の並行記事を見てみると、そこには、非常に興味深い教えが記されてあります。マタイ 21:28-32 の部分です。『28 ところで、あなたがたは、どう思いますか。ある人にふたりの息子がいた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行って働いてくれ』と言った。29 兄は答えて『行きます。お父さん』と言ったが、行かなかった。30 それから、弟のところに来て、同じように言った。ところが、弟は答えて『行きたくありません』と言ったが、あとから悪かったと思って出かけて行った。31 ふたりのうちどちらが、父の願ったとおりにしたのでしょうか。』彼らは言った。「あとの者です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。取税人や遊女たちのほうが、あなたがたより先に神の国に入っているのです。32 というのは、あなたがたは、ヨハネが義の道を持って来たのに、彼を信じなかった。しかし、取税人や遊女たちは彼を信じたからです。しかもあなたがたは、それを見ながら、あとになって悔いることもせず、彼を信じなかったのです。』

間違いなく、この教えは、取税人や遊女たちに対して語られたものではなく…、その対極に居た祭司長たちに対して語られたものです。だから、イエス様は、ここで、『**取税人や遊女たち**』のこを3人称で語り…、祭司長たちのことを、『**あなたがた**…』(2人称＝話し相手)という風に表現しているわけです。

この教えの中で、お父さんは子どもたちに、『**きょう、ぶどう園に行って働いてくれ!**』ということをお願います。それに対して、兄息子の方は、『**行きます。お父さん**』と言って、行きませんでした。兄の方は、口だけだったのです。しかし、その逆に、弟息子の方は、『**行きたくありません**』と言ったにも関わらず、後から反省をして…、お父さんの言葉通り、行ったと言うのです。では、さて、この兄息子と弟息子のどちらが、お父さんの願った通りにしたか？ 言い換えますと、どちらが神の国に入っているか？ (=救われたか?) ということで、弟息子の方であると、イエス様は教えてくださっています。

⇒このことは、私たちにすごく大切なことを教えてくれています。つまり、言葉だけの信仰と言うものは、本物の信仰ではない！ 救われ得ない！ ということです。確かに、この時、所謂、祭司長や律法学者たちといった宗教家たちは、たくさんのお供え物を神様に捧げ…、慈善活動を積極的に行い…、また、長い祈りを捧げることも得意でありました。しかし、彼らは救われていませんでした。それは、彼らが、神様に対して、心を頑なにしていたからです！ その一方で、取税人や遊女たちは、自分が神の前に罪人であることを認め…、イエス様のことを信じ受け入れました。だから、彼らは、救われたのです！ 行ないではありません！ 天の神様は、イエス様のことを信じて…、「救われたい！」と願う者たちのことを、決して、拒んではなさいません！ 拒んだのは、むしろ、祭司長たちやパリサイ人たちの方だったのです！

聖書のみことばを見ますと、イエス様は、何度も何度も、祭司長や律法学者たちの非難に答え…、彼らにとって必要なことをおっしゃってくださっていたことが分かります。それは、イエス様が、彼らにも救われてほしかったからです。そうではないでしょうか？ だから、例えば、**Ⅱペテロ 3:9** には、『**主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。**』ということが教えられてあります。イエス様は、ここにおられる、すべての方々が救われることを願っておられます。だから、イエス様は、あの十字架の上にあっても、その大変な苦しみの中で、『**父よ。彼らをお救いください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。**』(ルカ 23:34)と祈ってくださったのです！

今日のみことばの、1番最後の 12 節で、当時の祭司長たちが、とうとう、悔い改めることなく、本当は、イエス様のことを捕らえたかったのに、群衆を恐れて、立ち去ったということが記されています。…結局、彼らは悔い改めることを拒んだのです。…彼らは自分たちの選択でもって、神様の憐れみにすがることが拒んでしまったのです。…その結果を皆さんは、ご存知です。その後、紀元 70 年に、エルサレムの町は、あのローマに滅ぼされてしまいます…。その後、約 1900 年に渡って、イスラエルの民たちは国を失った流浪の民として、世界のあちこちで迫害されていくのです。

確かに、**ヘブル 2:3** で、『**私たちがこんなに素晴らしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができましょう。…**』とある通りです。このみことばは、神様から受けた恵みというものが大きければ大きいほど、逆に、それを拒んだ者たちが受けなければならぬ報いと言うか、裁きは、それ相応に大きいものである！ ということが教えられてあります。

<励ましの言葉>

今、天の神様は、あなたが心を開いて…、イエス様をあなたの救い主として、信じ受け入れてくださることを待っていてくださっています。神は、あなたが救われることを願ひ…、そのために、必要なすべてのことをなして下さっています…。あと、ただ、あなたがすべきことは、ただ神が与えてくださった、イエス様を信じ、

受け入れることだけです。

どうか、皆さん、最初に話した欠陥住宅のような…、欠陥だらけの信仰、見せかけだけの信仰に満足しないでください！ 天の神様は今、1日も早く、あなたが、これまでの人生を悔い改めて、この真の神様であり…、救い主でもあられるイエス様のことを心から信じ、受け入れてくださることを願ってくださっています。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。